

政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名：地方議員研究会 i n 札幌
- (2) 参加者：上杉 正敏 、中野 正剛
- (3) 日時・場所：平成 27 年 7 月 1 日（水）・2 日（木）札幌

【1. 研修目的】

今回の研修会では、公務員による人事制度の問題点について、国家公務員、地方公務員における人事制度の現状を知ると共に、これからの人事制度の在り方を学ぶことを目的として参加した。

【2. 結果報告】

(1) 内 容

7 月 1 日（水）

講演 「人事制度の問題点」 山中 俊之氏（株）グローバルダイナミクス代表取締役社長

（1） P a r t 2 給料は給料表で決まっている

7 月 2 日（木）

講演 「人事制度の問題点」 山中 俊之氏（株）グローバルダイナミクス代表取締役社長

（2） P a r t 3 人事評価の給与への反映

(2) 考 察

今回の地方議員研究会セミナーでは、公務員における人事制度の問題点について学んだ。講師の山中俊之氏は、東京大学法学部を卒業後ケンブリッジ大学開発学修士等の資格を持ち外務省に入り中東外交、地球環境問題等を担当された。その後日本総研に入社し現職に至っている。このように国家公務員を経験し又、民間企業にも従事された点においても今回の公務員における人事制度の問題点での発言では、重みのある内容であったと感じた。

P a r t 2 の「給料は給料表で決まっている」というテーマでの講演では、給料はどうして決まるのか、給料表の何が問題か、人事院勧告と官民格差、公務員の給料は本当に高いのかというものであった。この中で、公務員は 30 代でもっと仕事に対し負荷をかけるべきであるということ、民間企業の実態から発見した。公務員の給与は等級と号棒で決まっていることも改めて確認した。また、人事院勧告では、勧告プロセスによる課題も学んだ。

P a r t 3 の「人事評価の給与への反映」というテーマの講演では、人事評価の項目と運用のポイント、自治体で起きている諸問題～形骸化と甘い評価、人事評価の勤勉手当と昇給への反映の具体的方法という内容であった。このテーマでは、公務員の人材像として専門性のある人材やマネジメント能力やリーダーシップのある人材が不足している事実を発見した。人事評価において海外では、目標管理のみでの評価であるが、日本でこの評価制度を用いるには、目標を立てにくい点で採用されないことを発見した。

また、評価には相対評価と絶対評価があり全国的には、絶対評価を採用しているのが多く、最近では大阪府市のように相対評価を取り入れている行政があることを知った。いずれにせよ職員一人ひとりが、高い目標をもって業務に取り組んでもらいたいと願うところである。